

## 全労金2018春季生活闘争ニュース・第15号

全労金2018春季生活闘争は、「回答期限日」まで残り2日です！  
「将来（未来）への責任」を果たすために、最後まで粘り強く闘おう！

### ◎連合は、3月22日午前10時時点で取りまとめた第2回回答集計を公表しました！

第2回集計では、平均賃金方式による賃金引き上げのみで1,216組合（第1回より541組合増）が回答を引き出し、全体として、第1回回答集計結果を若干上回る結果となりました（第2回回答集計結果が第1回を上回るのは2016年以来）。具体的な引き上げ水準は、全体で6,508円・2.17%（昨年同時期比284円増・0.12%増）、組合員300人未満の中小組合で5,468円・2.10%（昨年同時期比416円増・0.10%増）となりました。連合は、この結果を踏まえ、「第1回集計と大筋で変わっていないと感じている。底上げ春闘を掲げて3年目になるが、年々意味合いは浸透している」としています。

### ◎「回答期限日」に向けて、組合員の総意で確立した要求に最後まで拘りを持って闘いを進めよう！

全労金2018春季生活闘争は、金融機関を取り巻く厳しい環境と、今後の日本社会を踏まえ、「将来（未来）への責任」を果たすために、具体的な取り組みを確立しました。そのうえで、全単組が3月6日の統一要求提出日に要求書を提出するとともに、中間組織・職場組織においても対峙する所属長等に対して、要求書・要求主旨説明を提出し、全労金組織9,000名が一体となって「統一闘争」「共闘」の下、交渉を進めてきました。

全労金が毎週実施する定例報告（3月23日）によれば、今後も厳しい環境が見込まれる中で、労使が一体となって乗り越えるために、職場実態や組合員の思いを真摯に受け止め、労働組合の要求に応じる姿勢を示している金庫がある一方で、労働組合の要求とは異なる課題を取り上げる、経営の厳しさのみを主張する等、残念ながら私たちの思いが届いていない金庫もあると認識しています。

組合員のみなさん、「回答期限日」まで残り2日となりました。日常業務は年度末ということもあり、いつも以上に繁忙状況にあると思いますが、すべての組合員の団結が単組闘争委員会の背中を押します。みなさんの気持ちや思いを単組闘争委員会に届け、最後の最後まで、全労金組織全体で粘り強く闘いを進めましょう！

※ 次号は3月27日（火）に配信予定です。

以上